

社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)レビューシート

団体名: 特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス

訪問調査日: 2011年9月29日(木)

評価大項目(分類)	評価中項目	絶対評価コメント	達成率
I. 組織ミッション(社会的使命)と事業の推進	[1]組織ミッション(社会的使命)の確立	「すべての生命が安心して生活できる社会の実現を目指して」ー組織ミッションは定款をはじめ、ホームページ、リーフレット、年次報告書等にもわかりやすく表現し、明示されている。非営利・公益事業の推進が、直近の年次報告書からも確認できる。	23/24 達成率 88%
	[2]組織ミッションと事業の策定	中期的ヴィジョンは、Tera Renaissance Manifesto(2010~2012)~世界を変える3つの提言30の行動目標~において明確に示されている。また、事業計画は、スタッフ会議や理事メンバーによって合意形成を図りながら策定されている状況が確認できる。	
II. 組織と経営管理	[1]意志決定機関とガバナンス	年に数回の理事会の開催状況を確認できるが、議事録の作成等記録の保持に関して課題認識がある。運営上必要となるコンプライアンスの把握のため、自主研修会や外部研修会への参加状況を聞き取ることができる。通常総会や理事会において、法人の経営環境は適切に把握・管理されており、公認会計士による外部監査が実施されている。監査報告は、年次報告書にも掲載されている。	34/43 達成率 79%
	[2]適切な財務計画と執行・管理	「自己資金中期目標」において経営計画が示されている会費・寄付・助成金・事業収入(講演会<啓発>、物品販売)等多様な財源の確保がされている。納税等は納税証明書からも適切に行われている状況が確認できる。	
	[3]職員と労働環境	就業規則・給与規定等必要な規定が整備されている。法定福利厚生以外に、親睦会等の取り組みが確認できる。「インターン・ボランティア委員会」で職務分担表を作成し、位置付けている。人材育成に関して文書化したものは無いが、キャパシティビルディングを図るため、研修会の受講を推奨している。	
III. 事務局の執行体制と管理	[1]組織・事務局体制の確立	事務所機能は明確であり、決められた時間帯において、電話・来所対応が可能になっている。登記事項の更新、所轄庁への報告等、必要な手続行われており、事務所に保管されている状況が確認できる。	26/31 達成率 84%
	[2]会計全般	経理規定に基づき、適切に管理・運用がなされている。経理担当者を置いて管理しているが、専門性に課題認識がある。	
	[3]事業を推進するための体制やルール	事業計画に基づく事業の推進状況が見受けられ、その評価・見直しが行われている事業成果の報告は、ホームページや個別事業報告からも確認できる。対象者に対する活動報告会等も行われている。	
IV. 社会資源の活用	[1]社会資源(企業/行政/市民など)の連携と活用	「市民・公益セクター次世代育成のための長期実践型NPO・NGOインターンシッププログラム」や「ひきこもり援助グループ」等同セクターの協働、カートリッジ回収プロジェクトや外務省日本NGO連携無償資金協力等、他セクターとの協働実績が確認できる。	16/16 達成率 100%
V. 情報の公開と社会的信頼	[1]情報の公開	組織・事業情報はホームページやリーフレット、機関誌で公開されている。ストック・フロー情報もホームページで随時適切に更新されている。寄付者には、お礼状とともに機関誌「結晶母」を送付する等、確実に情報提供が行われている。	18/18 達成率 100%
	[2]第三者による評価	第12回地球倫理推進賞(社団法人倫理研究所)からの表彰の他、NHKドキュメント、AERA2011年1月31日号にも掲載、トヨタ財団等からの多様な助成実績が確認できる。	
VI. 組織のリスクマネジメントと社会的責任の追求	[1]組織のリスクマネジメント	文章保存規定を作成し、書類の保存がされているが、破棄に関する規定はない。パソコン管理責任者による定期的なデータバックアップやウィルス対策、パスワードの設定等が行われている。個人情報取扱指針を作成し、遵守している状況が見受けられる。その他、海外駐在員用「危機管理マニュアル」が策定されている。	9/18 達成率 50%
	[2]組織の社会的責任の追求	他団体の役員就任や講演・執筆活動を通じて、「市民社会の創造」に向けた考え方を表明している。環境負荷軽減に関する取り組みに関して、顕著には見受けられない。	
【相対評価(セルフレビュー)／総括コメント】 当法人は、「地雷」、「小型武器」、「子ども兵」という3つの課題に対して、現場での取り組み(支援)と同時に、課題が発生する原因について、啓発・提言を重ねることで、課題の解決を目指しています。 啓発活動においては、日本で生活している私たちの生活が世界で起こっている問題とに結びついているかを考え、自分たちが変革の主体者であるという意識を啓発する、という点に力を入れているのが特徴です。 はがき1枚、インク1個から、寄付をしてくださった方にはお礼状を出すなど、寄付者や支援者の皆さまとのコミュニケーションを大切にしています。また、「ひとりひとりに未来をつくるチカラがある」を信念に、海外現場では、現場のニーズや状況に応じて、小さなNGOだからこそできるオーダーメイドの支援活動を行っています。 事務局では、昼食を自炊し、その日の出勤者全員が1つのテーブルにそろって食べるなど、スタッフ間でのコミュニケーションの時間を大切にしています。①市民社会をつなぐ存在、②多様性かつバランス感覚のとれた組織、③一人ひとりの可能性をひらく存在という、組織の将来像の実現に向けて、現在の組織が持っている資産(ヒト、モノ)のより一層の有効活用を図るべく、支援者データの一元化作業などに取り組んでいます。 本法人は、「すべての生命が安心して生活できる社会(=世界平和)(設立目的)」といミッションの達成に向けて、势力的に事業展開が行われている状況が見受けられます。直近のAnnual Activity Report2010「2010年度年次事業報告書」は、法人としての説明責任と情報開示を果たすものとして秀逸に作成、公開・配布されています。京都発のNGOとしての評価も高く、今後ますますの活躍を期待される団体のひとつであるとも言えます。組織の成長・ガバナンス移行に伴う理事会組織の強化等は、一定検討課題としての認識がありますが、海外の活動地と日本(京都)に活動拠点を構えながらもメンバーのコンセンサスは組織として機能的に図られていますので、本社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)において認証しました。			126/150 総合達成率 84%